

沖縄県営名護城公園における公園づくり-ブランディングと市民参加-

沖縄県北部土木事務所都市港湾班 ◎班長 田原 武文
沖縄県八重山土木事務所維持管理班 ○技師 島袋 寛之

1. 目的

名護城(ナングスク)公園は、沖縄県名護市、名護岳の麓に位置する県営公園である。本研究は、公園づくりの新しい手段を創出することによって、本公園のさらなる活性化を図ることを目的とする。

2. 内容

まず、本公園の活性化には、「求心力のある(人を集められる)公園」である必要性を、指定管理者制度の実情を踏まえ考察する。その上で、求心力を持たせるための「ブランディング(イメージの確立)」と「市民参加」という2つのテーマに基づき実施した取り組みを紹介し、今後の展望を述べる。

3. 結論

公園全体を通しての「ブランディング」や、市民参加型のプランづくりを始め、サクラの植樹祭、田んぼ造成、学習体験施設整備等の取り組みを重ねた結果、多くの市民に本公園が認知され、運営を率先してすすめる市民団体が出てきたことは大きな成果であると考ええる。本公園における公園づくりは、「整備する側」と「管理する側」、そして「使用する側」とを結びつけることができた。

4. 今後の問題点

昭和38年の都市計画決定以来、整備が推し進められてきた本公園の沿革に鑑みると、今回の公園づくりは、「整備する側」から発せられた単発的なイベントにすぎないが、前述した3者が協働で公園づくりを行うきっかけとなった。今後は、この流れをさらに発展させられる仕組み・手段を、確立できるかが課題となる。すなわち、「整備する側」と「管理する側」、「使用する側」との協働によって、3者の参加意欲をいかにして誘発させられるか、これまでの「モノづくり」とは違った「価値づくり」という視点から、様々な試みを実践する必要がある。